

市の予算は



昭和58年度予算と57年

財政事情の公表

市は、市の財政事情を市民の皆さんに知っていただくため、毎年前期（10～3月）、後期（4月～9月）に分けて、6月と12月に「富士市の財政」を公表しています。今回は、昭和58年度予算と昭和57年度の財政状況（昭和57年10月～昭和58年3月31日）をお知らせします。

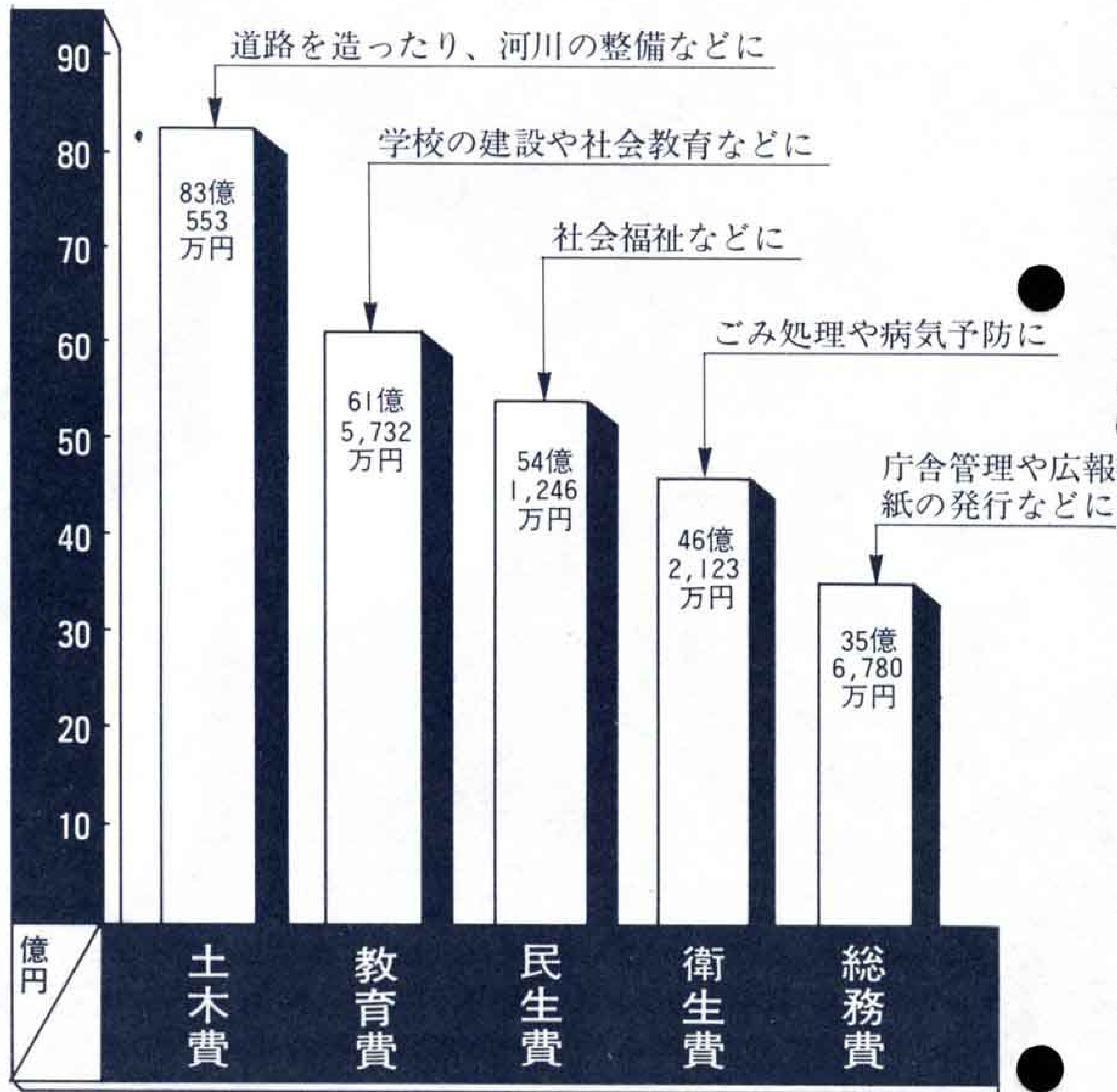
緊縮型の予算編成

昭和58年度予算は、一般会計が367億2,000万円、企業会計を含む特別会計が245億4,907万円で、総額612億6,907万円。

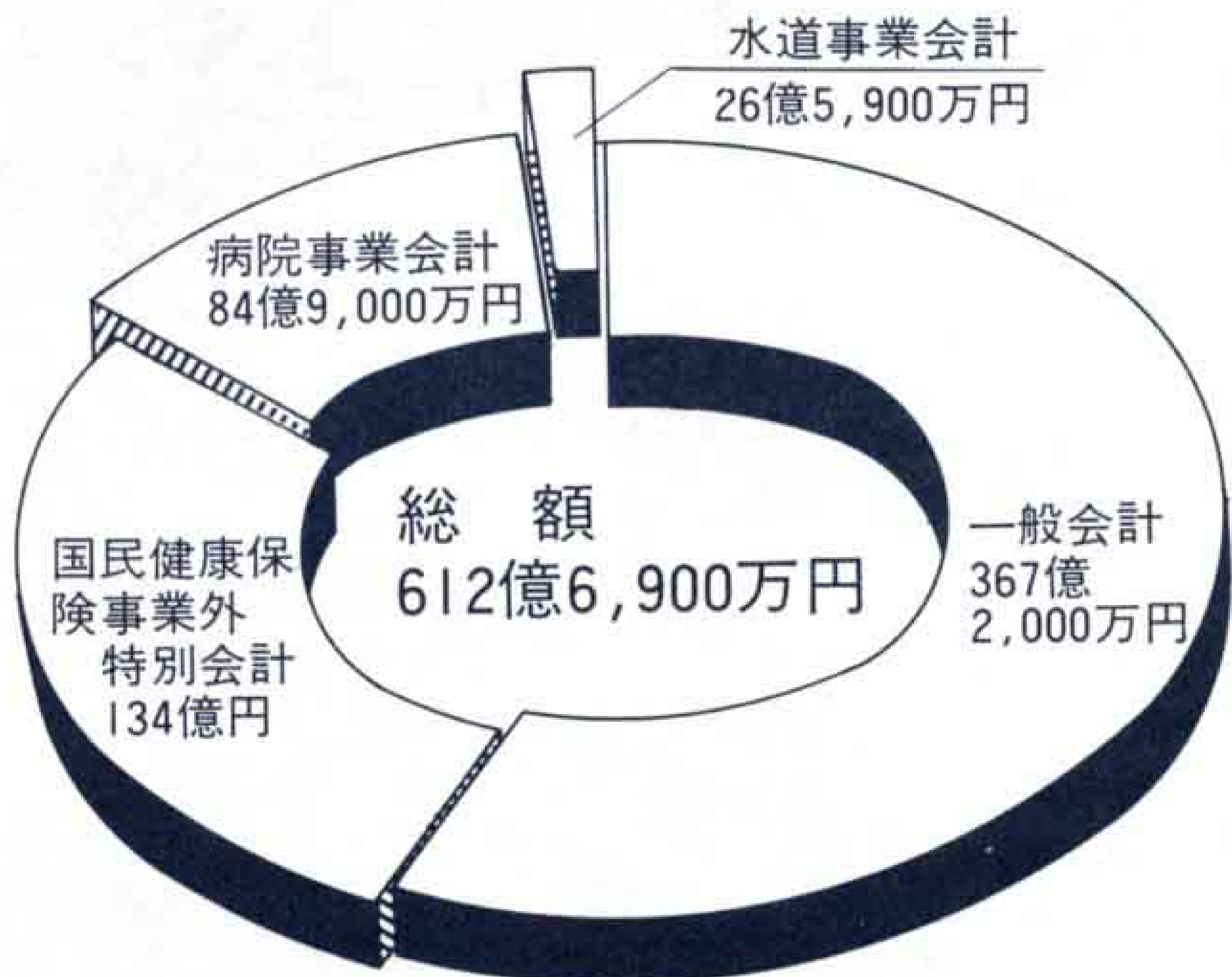
57年度の当初予算と比較すると、一般会計が4億9,000万円増の1.4%の伸びを、企業会計を含む特別会計が61億4,148万円増の33.4%の伸びを示し、総額では66億3,148万円増の12.1%の伸びとなりました。

特別会計の大幅な伸びは、下水道事業、富士中部土地区画整理事業及び病院事業に積極的に対処したことに加え、老人保健法の施行にともなう医療費が、新たに編入されたことによるものです。

歳入面では、自主財源の根幹をなす市税収入が前年度対比6.5%増にとどまり、過去数年来平均10%台の伸長率から比べると大幅な落ち込みとなっています。歳出面については、人件費・物件費などの節減に努めつつ、新病院の建設、下水道や道路河川等の整備、福祉の充実などの事業費を積極的に計上しました。



昭和58年度会計別予算

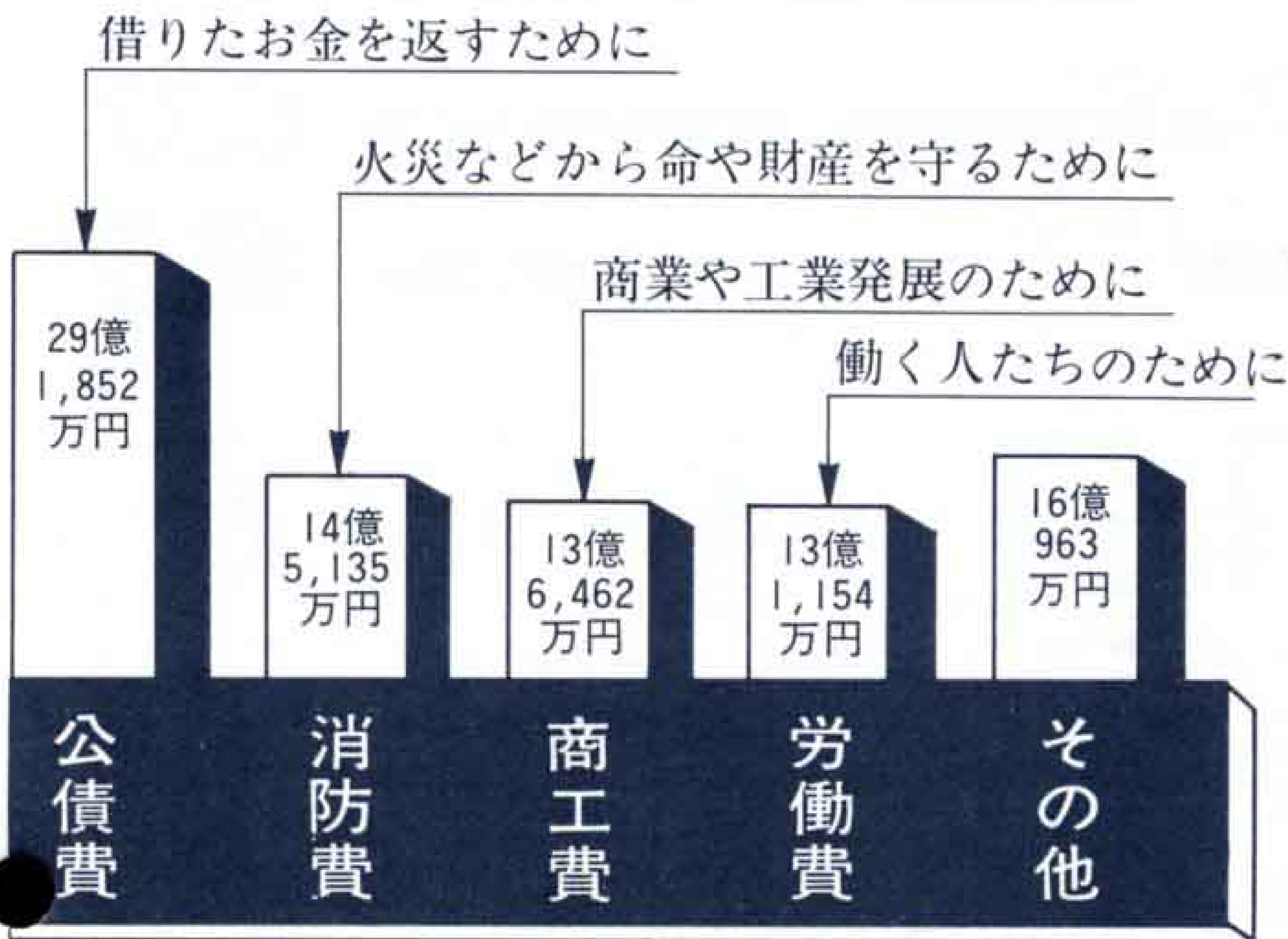


このように

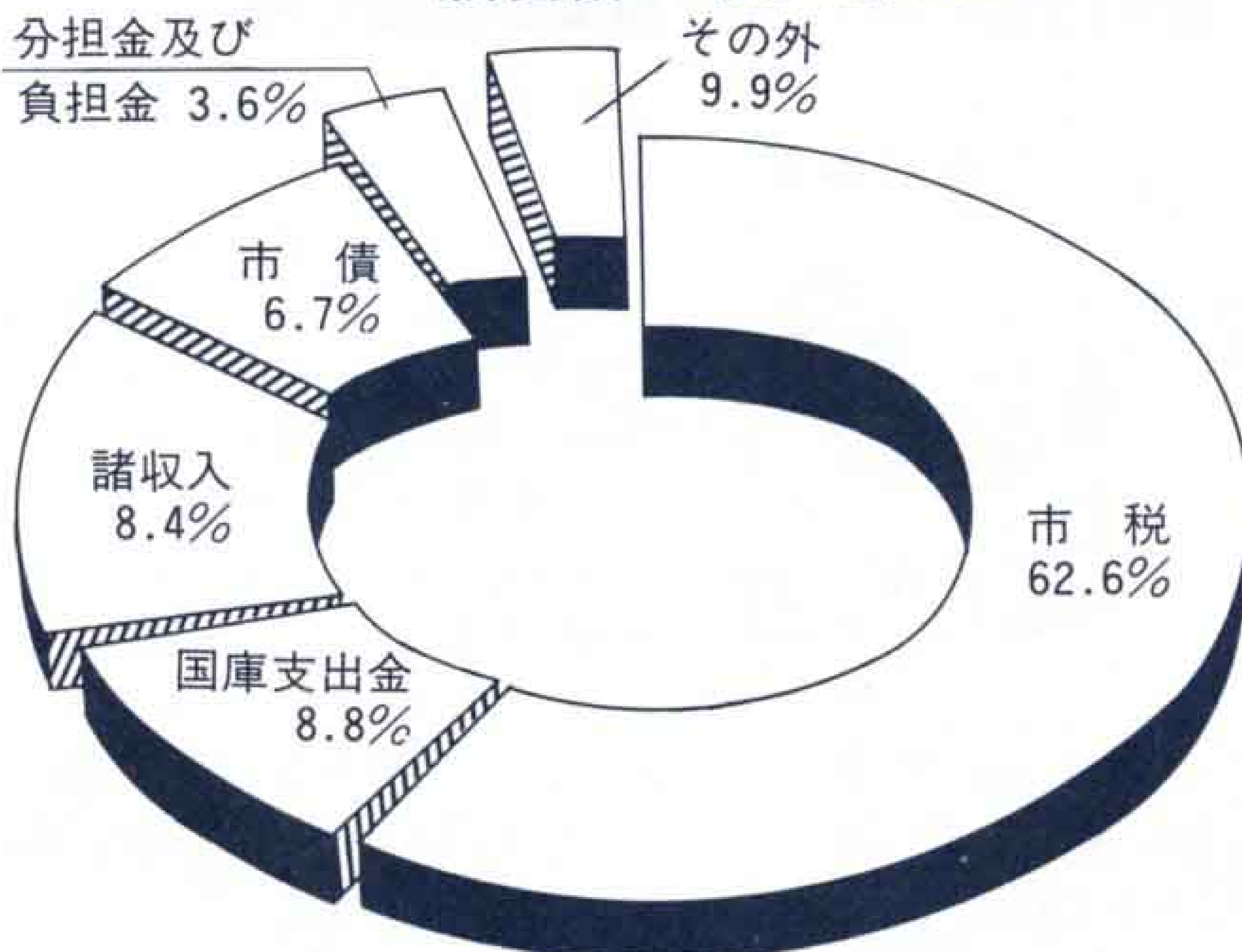
度の財政状況

昭和58年度予算の使いみち

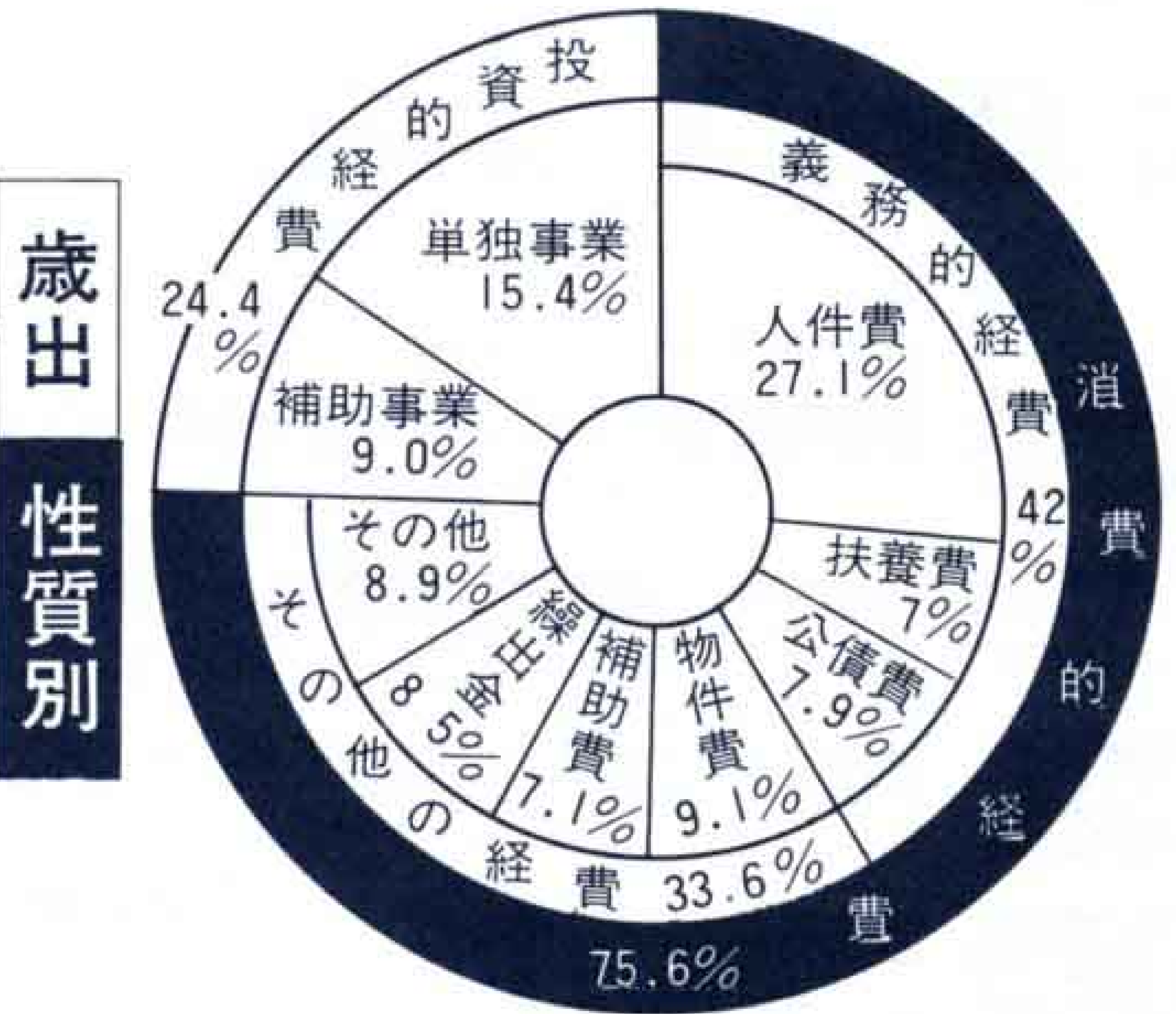
一般会計 367億2,000万円



一般会計の収入構成比



財政構造の状況



財産・基金・地方債の状況

市有財産の状況	数量
有価証券	2,280万4,000円
土地	4,910万平方㍍
建物	52万485平方㍍
立木	19万9,012立方㍍
車両	240台

基金の現在高 22億8,460万円

※基金の主なものは、国保支払準備基金、土地開発基金、総合市民文化会館基金、財政調整基金です。

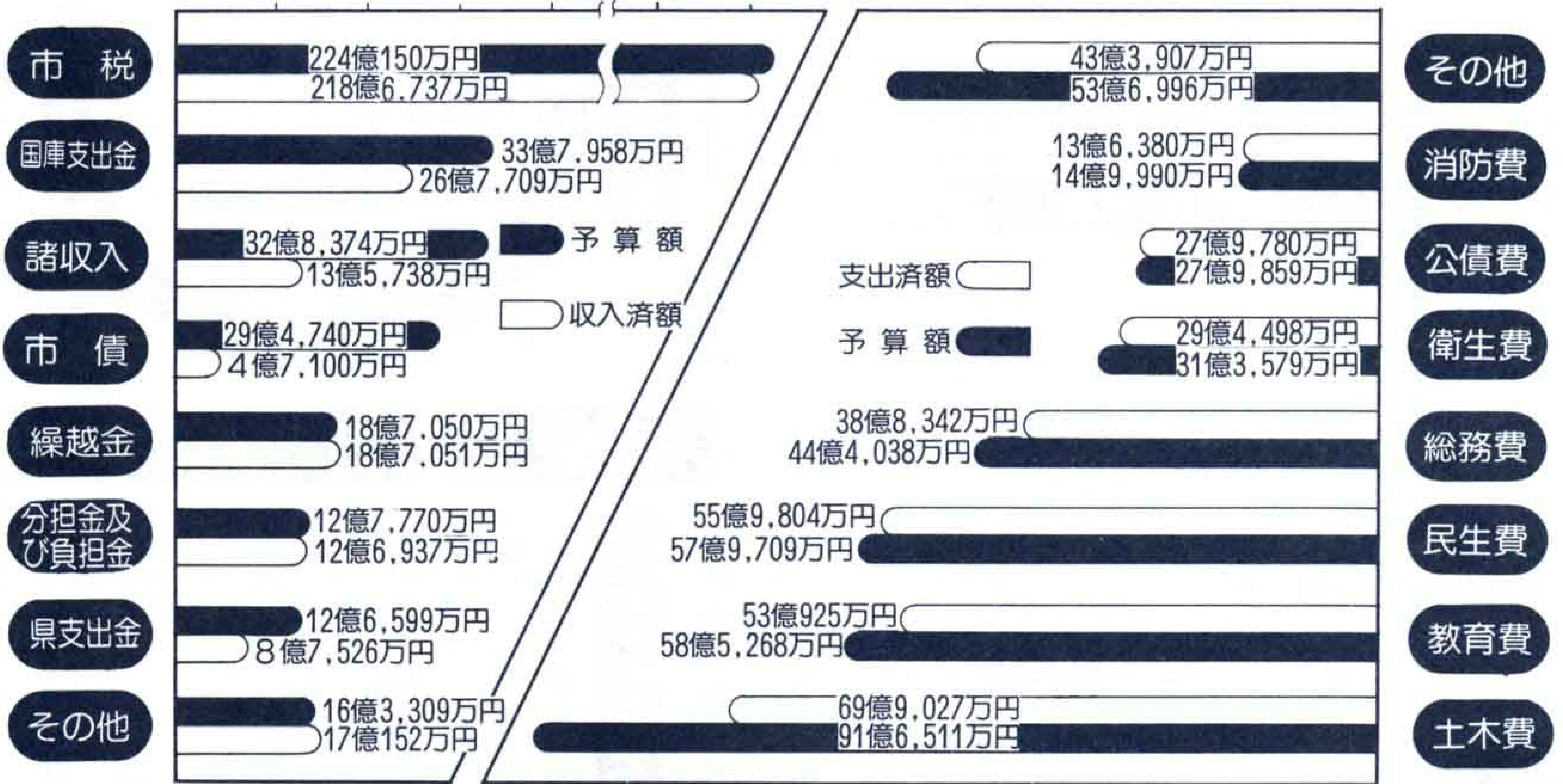
一時借入金 20億円

一般会計	地方債の未償還額
郵政省	67億1,788万円
大蔵省	59億1,515万円
市中銀行	22億9,917万円
金融公庫	22億2,646万円
共済組合	10億 902万円
その他	16億5,725万円
計	198億2,493万円

昭和57年度の予算及び執行状況

歳入 予算総額 380億5,950万円
収入済総額 320億8,950万円

歳出 予算総額 380億5,950万円
支出済総額 332億2,663万円



特別会計		依田原新田 区画整理会計	予算額 2億4,856万円 支出済額 1億8,155万円	駐車場会計	予算額 5,625万円 支出済額 4,161万円
国保会計	予算額 48億8,700万円 支出済額 42億4,875万円	富士中部区画 整理会計	予算額 9億2,375万円 支出済額 5億9,989万円	公共用地 先行取得会計	予算額 2億612万円 支出済額 1億9,563万円
下水道会計	予算額 36億5,750万円 支出済額 30億3,389万円	地方卸売 市場会計	予算額 5億8,200万円 支出済額 5億6,822万円	老人保健会計	予算額 2億3,200万円 支出済額 2,889万円

昭和57年度 企業会計の決算状況

☆水道事業



- 収入合計 17億6,150万円
- 営業収益 16億5,614万円
- 営業外収益 1億 535万円
- 特別利益 1万円
- 支出合計 18億2,541万円
- 営業費用 14億5,620万円
- 営業外費用 3億6,921万円
- 純損失 6,391万円

総配水量 3,257万1,106立方メートル
1日平均 8万9,236立方メートル
1人平均1日 484リットル

(昭和57年4月1日～昭和58年3月31日)

☆病院事業



- 収入合計 36億8,234万円
- 医業収益 33億1,890万円
- 医業外収益 3億6,344万円
- 支出合計 36億1,463万円
- 医業費用 34億2,420万円
- 医業外費用 1億9,043万円
- 純利益 6,771万円

入院患者延べ 9万9,057人 但し、一般会計からの補助金
外来患者 22万 115人 1億円が営業外収益の中に含
外来1日平均 741人 まれています。

(昭和57年4月1日～昭和58年3月31日)